

多摩川共同点検に参加しました

平成 27 年 9 月関東・東北豪雨により全国各地に浸水被害が発生し、特に鬼怒川の堤防が決壊した茨城県常総市は約 1 万 1 千棟が浸水する甚大な被害が生じたことは記憶に新しいところです。

このことを受け国土交通省京浜河川事務所主催の「多摩川共同点検」が平成 27 年 11 月 6 日啓明学園近くの昭和用水堰付近で実施されました。この点検に市、消防団、堤防沿いの住民が参加しました。

青梅市の万年橋から浅川合流点までを管理する多摩川上流出張所の説明によると

①昭島市に氾濫被害を発生させる恐れのある箇所：拝島地先の昭和用水堰付近（左岸 48.0 ㌦^入ト）

②氾濫危険水位設定箇所：青梅市にある調布橋水位観測所 この水位が 0.2m（水防団待機）、1.0m（氾濫注意）、1.2m（避難判断）、1.6m（氾濫危険）と定めている

*調布橋水位観測所の水位は京浜河川事務所のホームページで 1 時間毎に見ることができます。

ちなみに平成 27 年 11 月 26 日 13 時現在の水位は ー(マ付)2.41m でした。

地域防災学習交流会を開催しました

平成 27 年 11 月 14 日の交流会には雨天にもかかわらず 34 名の皆さまが参加しました。

演題は「被災地支援経験者から学ぶ」で、講師の神奈川県災害ボランティアステーション主宰鈴木幸一氏のお話は概略以下のとおりでした。

①被災現場は・避難所は狭くプライバシーもない ・飲料水や電気も不便 ・トイレが使えない
・仮設トイレは臭いもひどく不衛生だがないよりまし ・施設損壊や物流渋滞で買い物が思うようにできない ・拳動不審者が横行 ・災害復旧に汗する人々の真剣な取り組みは日本人の誇り

②被災地での経験を踏まえた防災対策（家庭内）

・家具の固定と配置換え ・簡易トイレの備蓄 ・非常持ち出し品の整備と安全が確認できれば自宅待機も選択肢など

③被災地での経験を踏まえた防災対策（自治会）

・大規模災害時は初期の公的救援は期待薄 住民の自主的な救出救護活動が重要
・ライフライン停止後の生活は普段から住民がまとまり顔の見える関係にある自治会単位がよい
・街歩きなどを通じて地域の状況を把握し施設改善や危険個所の除去に繋げる
・防災訓練や応急手当講習会への参加 特に子供たちの参加は地域の将来を明るくする
・自治会防災名簿の整備 防災倉庫に資機材の整備や備蓄など

特に地域の多くの人々が私服のままではなく救援者であることを明確にした防犯ベストやビブスなどを着用して救助、復旧活動にあたっていると、被救助者は安心するしまた不審者を近づかせない効果があるというお話は印象に残りました。

12 月のほっとサロンー休は・・・

地域交流の場「ほっとサロンー休」は 12 月 24 日(木) 10:00~12:00 福島自治会館で開催します。参加費は茶菓子代 100 円、どなたでも参加できます。お気軽にお立ち寄りください。